

「人生設計ゲーム」のボード記述からみるライフプランの意思決定分析

The Analysis of Decision Making Process by Using “Life Planning Game”

大藪千穂・古川由佳子¹・奥田真之²

Chiho Oyabu, Yukako Furukawa and Masayuki Okuda

1. はじめに

近年、金融経済教育の重要性に関心が高まっている。わが国の金融経済教育は、これまで行政が主導的な役割を担ってきた。2013年には消費者教育推進のための体系的プログラム研究会が「消費者教育体系イメージマップ」の中で金融経済教育を位置づけ（消費者庁 2013）、2014年には金融経済教育推進会議が、学校教育や社会人、高齢者における金融経済教育に関する初の統一的なガイドライン「金融リテラシー・マップ」を公表し（金融経済教育推進会議 2014）、学校での金融経済教育も広がりを見せ始めている。

筆者らは、情報活動を基盤とした人間発達を促す新しい視点を持った消費者教育を提唱し（坂野他 2003, 3004, 大藪他 2005）、その内容と方法を様々な教材を用いて提案してきた（大藪 2014, 大藪・奥田 2013, 2014, 奥田・大藪 2013, 2014）。金融経済教育に関しても同様に、教材や授業方法を工夫することによって、学校教育終了後も将来にわたって、時々刻々と変化する金融経済教育の変化に適切に対応できる能力を養うことができると考え、その理論を基に、「人生設計ゲーム」を開発し、その授業効果を検証してきた（大藪・杉原 2008, 大藪・奥田 2015a, 2015b, 2016）。

本論文では、これまで筆者らが実践してきた「人生設計ゲーム」の結果が記述されているボードを用いて、ゲームを実践した児童・生徒・学生のライフプランの意思決定を明らかにすることを目的としている。「人生設計ゲーム」を用いた授業は、2014年6月から2015年2月の間に、小学生261人、中学生466人、高校生234人、大学生308人の合計1,269人を対象に実践した。ボード分析は、授業内でボード記述を行うことができ、記述に不備のなかった小学校4校（258人）、中学校5校（438人）、高校4校（234人）、大学3校（292人）の合計1222人のデータを分析対象とした。

「人生設計ゲーム」の詳細については、既存研究を参照されたい（大藪・奥田 2015, 2016）。ここでは、簡単な説明にとどめる。このゲームの特徴は、多くの既存のゲームが他人とゲーム終了時の残金を比べて勝ち負けによってゲームを終了するものであるのに対して、自分の人生を自分で考えて生活設計する事を目的に開発した点にある。このため本ゲームはすごろく形式ではなく一人で行うゲームとして設計し、20代、30代というように10年間ごとに自分の人生を平均寿命まで、じっくり考え、計算できるボードゲームとした。働き方別の「年収表」（表1）、世帯類型別の「生活費表」（表2）、「選択可能なライフイベント」（表4、結婚、出産、教育費、車や住宅の購入、投資、娯楽、保険）と「選択不可能なライフイベント」（表5、病気や災害、金銭トラブル、遺産等20種）を用意し、年収、生活費や「選択可能なライフイベント」は自分で選択し、「選択不可能なライフイベント」は、10年ごとに1回、20枚あるパネルの中から無作為に1枚のパネルを引く。対象者は「選択不可能なライフイベント」のパネルの内容は知らされていない。保険は、加入していればどのようなマイナスイベントが生じても200万円まで保証する設定とした（表3）。10年ごとに収支を計算し、死亡するまで人生にかかる費用をシミュレーションするというものである。授業は基本的に授業時間の1時間（小学生45分、中学生と高校生50分、大学生90分）で実施した。

1 岐阜県教育委員会社会教育文化科

2 株式会社十六総合研究所主席研究員

本論文では「人生設計ゲーム」を実施し、その後回収したボードに記載された「年収額」、「選択可能なライフイベント」、「子どもの出産時期」、「娯楽・投資金額」、「保険」に関する意思決定について分析した。

表1 年収表

ゲーム上の年収			
独身	20代	フルタイム	年収 280 万円
	30代	フルタイム	年収 400 万円
	40代	フルタイム	年収 530 万円
	50代	フルタイム	年収 630 万円
	60歳～寿命 (男性 80 歳・女性 86 歳)		年収 240 万円 (年金)
夫婦	20代	共働き(2人ともフルタイム)	年収 550 万円
		片働き(1人のみフルタイム)	年収 280 万円
		片働き+パート	年収 380 万円
	30代	共働き(フルタイム)	年収 800 万円
		片働き(1人のみフルタイム)	年収 400 万円
		片働き+パート	年収 500 万円
	40代	共働き(2人ともフルタイム)	年収 1050 万円
		片働き(1人のみフルタイム)	年収 530 万円
		片働き+パート	年収 630 万円
	50代	共働き(2人ともフルタイム)	年収 1250 万円
		片働き(1人のみフルタイム)	年収 630 万円
		片働き+パート	年収 730 万円
	60歳～寿命		年収 300 万円 (年金)

表2 生活費表

家族形態	生活費
生活費(独身)	年間 180 万円
生活費(夫婦のみ)	年間 300 万円
生活費(子どもあり)	年間 360 万円

表3 保険表

家族形態	保険料
保険(独身)	年間 10 万円
保険(夫婦のみ)	年間 10 万円
保険(子どもあり)	年間 20 万円
保険(子ども独立後)	年間 10 万円

表4 「選択可能なライフイベント」

	選択可能なライフイベント	必要な金額
就職・転職	就職	年収表を参照
結婚	結婚 1(結婚式をする)	500万円
	結婚 2(結婚式をしない)	150万円
出産	出産	20万円
車の購入	車の購入 1	100万円
	車の購入 2	200万円
	車の購入 3	300万円
住居購入	住宅購入 1	2000万円
	住宅購入 2	3000万円
	リフォーム 1	500万円
	リフォーム 2	1000万円
子どもの教育費	老人ホームの購入	1000万円
	幼稚園(公立)3年分	60万円
	幼稚園(私立)3年分	150万円
	小学校(公立)6年分	210万円
	小学校(私立)6年分	780万円
	中学校(公立)3年分	135万円
	中学校(私立)3年分	375万円
	高等学校(公立)3年分	150万円
	高等学校(私立)3年分	300万円
	大学(国公立)4年分	260万円
	大学(私立・文系)4年分	380万円
	大学(私立・理系)4年分	500万円
	大学(私立・医歯系)6年分	2400万円
	短期大学 2年分	200万円
専門学校 2年分	200万円	
子どもの下宿 4年分	520万円	
投資	株の購入 1	10万円
	株の購入 2	50万円
	株の購入 3	100万円
娯楽	旅行 1	10万円
	旅行 2	30万円
	旅行 3	100万円

表5 「選択不可能なライフイベント」

	選択不可能なライフイベント	必要な金額
マイナスイベント	病気 がん治療	-100万円
	病気 手術	-50万円
	介護	-200万円
	交通事故	-30万円
	泥棒の被害	-100万円
	火事	-500万円
	地震	-1000万円
	リストラ	-200万円
	クレジットの被害	-50万円
	給料カット	-50万円
	ボーナスカット	-80万円
	連帯保証人による借金	-300万円
	連帯保証人による借金	-500万円
	連帯保証人による借金	-1000万円
プラスイベント	株の暴落	投資した額の半分
	株の上昇	投資した額の2倍
	遺産	+500万円
	遺産	+1000万円

2. 結果

対象者の校種別の割合は、小学生21%，中学生36%，高校生19%，大学生24%であった。中学生の割合が多くなったが、これは中学校はクラス数が概して多かったためである。また男女比は、女子57%，男子43%となり、女子の方が若干多くなったが、これは女子の比率が多い高校があったためである。まず全体の傾向を分析し、ついで男女別、校種別の傾向を明らかにした。

(1) 全体の傾向

1) 各年代の年収額の選択

「人生設計ゲーム」のボードに記載してある年収額（10年間分）を年収表（表1）から確認し、そこから働き方を分析した。この結果（図1～図5），年代が上がるにつれて無記入者が増えているのは時間の都合上，授業内に人生設計ゲームを終わることができず，途中までしかできなかったためである。20代は，「2000万～3000万円」が37.4%，「5000万～6000万円」が33.2%と，独身または片働きの年収2800万円，共働きの5500万円と一致する（図1）。これより，20代は，独身または片働きを選択する割合と共働きの割合がほぼ3割であることが分かる。40代以降は生活費や「選択可能なライフイベント」や「選択不可能なライフイベント」の出費，また貯蓄金額の累積金額となるため，実際の年収額が異なる場合があるが，参考に比較しておく，40代は，「1億円以上」の割合が53.5%と最も多く，共働きの年収10500万円と一致し（図3），50代も，「1億円以上」の割合が42.2%と，共働きの年収12500万円とほぼ同じ金額であることがわかる（図4）。60代では，独身の場合は，3600万～4800万円，夫婦の場合は6000万円であることから（図5），40代，50代において独身・片働きより共働きを選択する対象者が多いと考えられる。

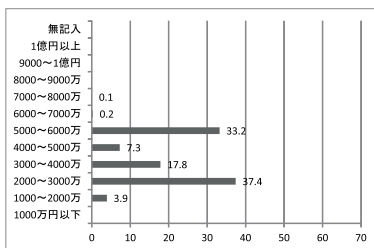


図1 20代の年収額

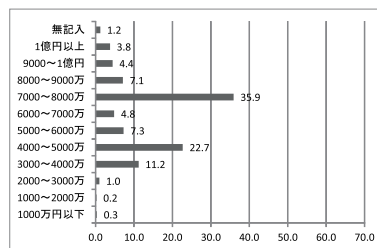


図2 30代の年収額

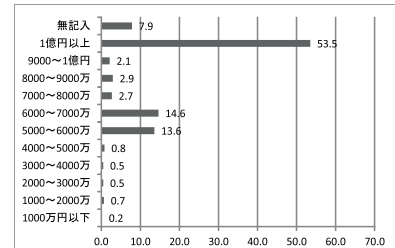


図3 40代の年収額

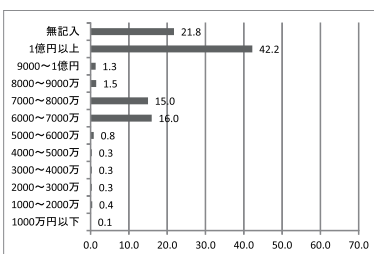


図4 50代の年収額

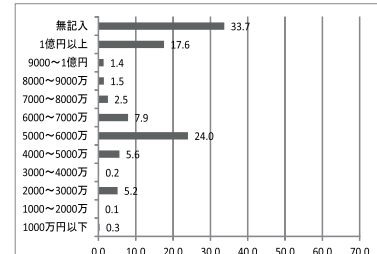


図5 60代の年収額

2) 各ライフイベントの選択

結婚、出産、車の購入の選択は、20代、住宅購入の選択は30代、老人ホームの購入は「しない」の割合がそれぞれ最も多くなった（表6）。結婚や出産など年齢によって大きく環境や状況が左右されるライフイベントや、車の購入などは20代に選択され、次いで30代の割合が多くなった。また住宅購入は、結婚や出産、車の購入など身の回りのライフイベントが一通り終わった30代に最も選択された。次いで「しない」という割合が16.6%となった。老人ホームに関しては、購入「しない」は75.1%と高い割合を示した。

表6 ライフイベントの選択割合

	結婚	出産	車	住宅	老人ホーム
しない	10.1	14.2	5.6	16.6	75.1
20代	75.9	65.4	78.5	17.3	0.2
30代	13.3	19.4	12.2	49.6	0.2
40代	0.7	0.8	2.8	13.5	1.1
50代	0.0	0.1	0.6	2.6	3.7
60代	0.0	0.1	0.4	0.4	19.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表7 出産時期の選択割合

	第一子	第二子	第三子
しない	15.5	48.4	93.4
20代未満	0.3	0.0	0.0
20代前半	9.0	2.0	0.1
20代後半	56.1	15.1	0.7
30代前半	14.5	24.2	3.5
30代後半	3.7	9.1	1.7
40代	0.7	1.1	0.5
50代	0.1	0.1	0.1
60代	0.2	0.1	0.1
合計	100.0	100.0	100.0

3) 子どもの出産時期の選択

表7から、子どもを出産しない割合が最も高いのは、第三子の93.4%であり、第二子48.4%、第一子15.5%と少なくなる。第二子を出産しないのは約半数を占める。第一子の出産時期は、20代後半が56.1%と半数を占め、第二子では30代前半、第三子は30代を除いて1%未満であり、30代前半の3.5%が最も高い割合を示した。全体の傾向として、出産は20代後半から30代前半を選択する割合が高くなった。

4) 娯楽・投資金額の選択

娯楽・投資ともに100万円以下の金額の割合が最も高いことが分かる（図6）。特に投資は「100万円以下」の割合が83.4%を占め、100万円以上であっても500万円以下の金額がほとんどであり、500万円以上は1000万円以上のわずか1.0%となった。投資に関しては、ほとんどが未経験であることから、想像しにくかったことに加え、投資分に回す余分なお金がなかったのではないかと考えられる。投資を行うとしても、100万円から500万円の金額の間で行うものが多いことが分かる。

娯楽に関しては、「100万円以下」(42.7%)が約半数を占めるが、次いで「100万～200万円」(15.8%)となった。多少の差があるものの、広い金額範囲に分布しており、個人によって金額に差が見られた。「1000万円以上」の割合が7.8%あることから、余裕があると娯楽にお金を使う傾向がある。

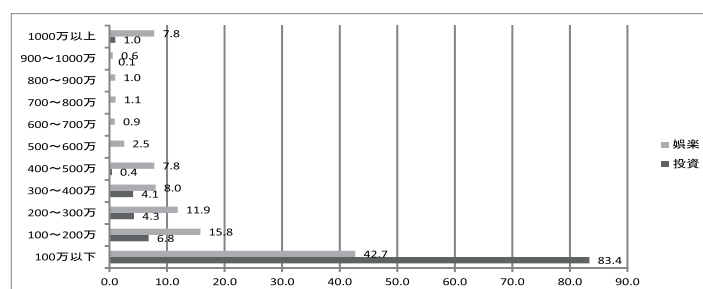


図6 娯楽と投資金額

5) 保険の選択

保険は99.3%が加入した。今回のゲームでの保険は、加入していればどのようなマイナスイベントが生じても200万円まで保証する設定となっている。不測の事態にあらかじめ備えておきたいと考える対象者が多いと考えられるが、事前にどのようなライフイベントがあるかは知らされていない。

(2) 男女別の特徴について

1) 各年代の年収額の選択

年収額から見る働き方の選択は、男女を比較すると、20代、30代、50代と60代に大きな違いが見られた(表8)。20代では、男子は「2000万～3000万円」(43.7%)、次いで「5000万～6000万円」(25.9%)であるのに対して、女子は「5000万～6000万円」(38.8%)、次いで「2000万～3000万円」(32.6%)となっている。男子は独身または片働きの年収金額である2800万円を記入するものが多いのに対して、女子は共働きの金額である5500万円を記入するものが多かったためと考えられる。男女の違いとして、20代の働き方の選択が、60代までの金額の違いに影響を及ぼし、男子は独身または片働き、女子は共働きの働き方として選択する傾向が見られた。

表8 男女別・各年代別の年収額の選択割合

	20代		30代		40代		50代		60代	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1000万円以下	0.0	0.0	0.4	0.3	0.2	0.1	0.0	0.1	0.2	0.4
1000～2000万	5.7	2.6	0.4	0.1	0.6	0.7	0.6	0.3	0.0	0.1
2000～3000万	43.7	32.6	0.6	1.3	0.8	0.3	0.6	0.1	5.7	4.7
3000～4000万	17.9	17.8	12.2	10.5	0.2	0.7	0.2	0.4	0.4	0.0
4000～5000万	6.7	7.8	27.6	19.0	1.3	0.4	0.6	0.1	9.1	3.0
5000～6000万	25.9	38.8	9.3	5.7	19.6	9.1	1.5	0.3	32.9	17.2
6000～7000万	0.0	0.4	3.8	5.6	15.8	13.8	21.9	11.5	1.5	12.8
7000～8000万	0.2	0.0	32.5	38.5	3.0	2.4	16.5	13.8	1.5	3.3
8000～9000万	0.0	0.0	6.8	7.3	2.5	3.3	1.5	1.4	2.3	0.9
9000～1億円	0.0	0.0	3.6	5.0	1.9	2.3	2.1	0.7	1.9	1.0
1億円以上	0.0	0.0	1.9	5.2	48.1	57.6	37.3	46.0	18.1	17.2
無記入	0.0	0.0	1.0	1.4	6.1	9.2	17.3	25.1	26.4	39.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

2) 各ライフイベントの選択

ライフイベントの選択を見ると(表9)、結婚の選択は、男子は20代で66.5%に対して、女子は20代で82.9%と約15ポイント高い。出産の選択は、男子は20代が51.5%であるのに対して、女子が20代で75.9%と25ポイント高い。このことから男女共通して、結婚と出産はほぼ20代と考えているが、男女間での認識の違いが結婚、出産において顕著に表れた。また結婚「しない」を選択した男子14.3%、女子7.0%、出産「しない」を選択した男子20.5%、女子9.5%と、男子の方が生涯独身でいる割合が多く、結婚したとしても子どもを望まない結果となった。他のライフイベントにも差異は見られるが、結婚、出産に最も認識の違いが現れた。

表9 男女別・ライフイベントの選択割合

	結婚		出産		車		住宅		老人ホーム	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
しない	14.3	7.0	20.5	9.5	3.4	7.2	14.1	18.5	70.5	78.6
20代	66.5	82.9	51.5	75.9	81.7	76.0	15.6	18.5	0.0	0.3
30代	17.7	10.1	25.9	14.5	10.3	13.6	51.5	48.1	0.2	0.1
40代	1.5	0.0	1.7	0.1	3.0	2.6	15.0	12.4	1.0	1.1
50代	0.0	0.0	0.2	0.0	0.6	0.6	3.0	2.3	5.1	2.6
60代	0.0	0.0	0.2	0.0	1.0	0.0	0.8	0.1	23.2	17.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3) 子どもの出産時期の選択

子どもの出産時期の選択では(表10), 第一子で男子は20代後半が44.9%に対し, 女子は64.5%と約20ポイント高くなっている。30代前半で男子が20.0%, 女子が10.3%と逆転した。男子が理想としている第一子の出生時の年齢は20代後半から30代前半であるのに対して, 女子は20代後半であることが分かる。またわずかではあるが, 男子で40代, 50代, 60代を選択しており, 自分の年齢と違う年齢の女性との出産か, 女性の出産適齢期を知らないことが読み取れた。女子は男子に比べて, 第三子においても30代前半までに産んでいる場合が多く, 出産の適齢期を把握している。また生涯出産「しない」を選択した割合は, 女子より男子の方が10ポイント高くなった。

表10 男女別・出産時期の選択割合

	第一子		第二子		第三子	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
しない	21.1	11.2	54.4	43.8	95.2	92.0
20代未満	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
20代前半	6.5	10.9	1.3	2.6	0.0	0.1
20代後半	44.9	64.5	10.3	18.7	0.2	1.0
30代前半	20.0	10.3	23.0	25.1	1.9	4.7
30代後半	4.9	2.7	9.1	9.1	1.9	1.6
40代	1.7	0.0	1.5	0.7	0.6	0.4
50代	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.1
60代	0.4	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

4) 娯楽・投資金額の選択

図7, 8より, 娯楽・投資については, どちらも女子は「100万円以下」の割合が高く, 100万円以上の割合はすべてにおいて男子の割合を下回っている。男子は娯楽や投資のような未経験のことに積極的にお金を使う傾向があるが, 女子は余剰資金があっても, 慎重になる傾向が見られた。

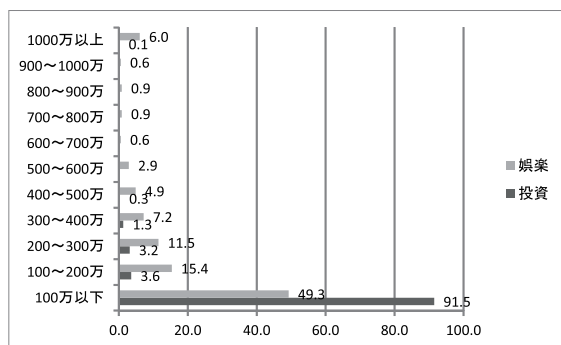


図7 男子の娯楽・投資金額の選択

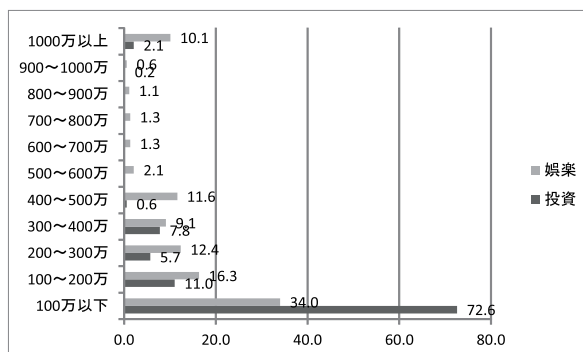


図8 女子の娯楽・投資金額の選択

5) 保険の選択

男女とも97%台と高くなった。このことから, 選択不可能なライフイベントのようにマイナスのイベントが多く起こる際に, 「あらかじめ対策を練っておく」, 「将来に対する不安をできるだけ取り除いておく」という志向に男女差は見られなかった。

(3) 校種別の傾向

次に校種別にライフイベントの選択にどのような差が生じるかを分析した(表11)。校種別分析の結果, 小学生は20代で結婚, 出産を選択している。中学生は, 結婚と出産は20代が多いが, 小学生よりも少なくなった。中学生は出産「しない」選択をした割合が他の校種に比べて最も高く, 大学生は

最も低かった。高校生は、車の購入は20代からが多い。出産に関しては中学生と同様の傾向を示し、20代前半からと考えている。大学生は結婚は20代であっても出産は30代と考える学生が多くなった。住宅購入に関しては、高校生と大学生は30、40代が増え、老人ホームの購入は大学生が34.6%と最も高くなった。

表11 校種別ライフイベントの選択割合

	小学生					中学生					高校生					大学生				
	結婚	出産	車	住宅	老人ホーム	結婚	出産	車	住宅	老人ホーム	結婚	出産	車	住宅	老人ホーム	結婚	出産	車	住宅	老人ホーム
しない	9.3	13.2	6.6	20.2	79.1	11.6	16.7	6.6	18.7	80.6	11.5	16.2	5.1	12.4	79.1	7.5	9.9	3.4	13.7	60.3
20代	84.1	75.6	74.4	21.7	0.0	73.7	65.1	75.1	22.4	0.2	70.9	62.4	86.3	17.1	0.0	75.7	59.2	80.8	5.8	0.3
30代	6.2	10.1	9.7	39.5	0.8	13.2	16.9	14.2	48.6	0.0	17.1	20.5	7.3	54.7	0.0	16.8	30.5	15.4	55.8	0.0
40代	0.4	0.8	6.2	12.4	0.4	1.4	1.1	3.2	9.1	1.1	0.4	0.9	1.3	13.7	1.3	0.0	0.3	0.3	20.9	1.4
50代	0.0	0.4	2.3	5.0	4.3	0.0	0.0	0.2	0.7	4.3	0.0	0.0	0.0	2.1	2.1	0.0	0.0	0.0	3.8	3.4
60代	0.0	0.0	0.8	1.2	15.5	0.0	0.2	0.7	0.5	13.7	0.0	0.0	0.0	0.0	17.5	0.0	0.0	0.0	0.0	34.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

1) 小学生の特徴

年収額から見る働き方の選択については(表12)、20代から半数以上が共働きを選択する。小学生は、働き出す年代から最も年齢的に離れているため、働く事に伴う大変さを考慮せず、単純に金額の高い働き方を選択している可能性が高い。図9より全体と比較し、娯楽の「100万円以下」の割合が20ポイント増加し、校種の中で最も高い。選択可能なライフイベント等を意識するあまり、貯蓄額をなるべく減らさないようにしていると考えられる。投資の「100万円以下」の割合は8割近いものの、他の校種の中で最も低くなった。保険に関しては、93.8%の児童が加入したが、他校種と比較すると保険に入る割合は最も低い。

ライフイベントの選択に関しては(表13)、結婚と出産の20代の割合に差が見られ、特に出産において女子の方が20ポイント高くなった。他のライフイベントには差は見られない。表14より第一子の出産時期が20代後半である割合が女子の方が20ポイント高く、男子では40代、50代で第一子を出産すると考えている児童もいた。男子も女子も第二子を出産「しない」割合が半数を超えた。また第一子の出産が20代後半である割合が全体より15ポイント増加しているが、第二子の出産をしない割合が20ポイント高くなった。

表12 年収額の選択割合 (小学生)

	20代	30代	40代	50代	60代
1000万円以下	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0
1000~2000万	0.0	0.4	0.8	0.0	0.0
2000~3000万	31.0	1.9	1.2	0.8	0.8
3000~4000万	6.2	7.0	0.8	0.4	0.4
4000~5000万	0.0	12.0	0.8	0.4	4.7
5000~6000万	62.8	8.5	10.1	0.4	25.2
6000~7000万	0.0	3.5	7.4	10.5	0.0
7000~8000万	0.0	41.1	4.3	6.2	0.8
8000~9000万	0.0	9.7	3.1	2.3	1.9
9000~1億円	0.0	7.0	2.7	1.2	1.6
1億円以上	0.0	7.0	63.2	55.0	20.2
無記入	0.0	1.6	5.8	22.9	44.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

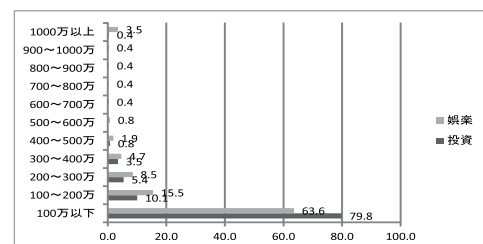


図9 娯楽・投資金額の選択 (小学生)

表13 男女別・ライフイベントの選択割合(小学生)

	結婚		出産		車		住宅		老人ホーム	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
しない	10.0	8.8	18.2	9.5	5.5	7.4	16.4	23.0	79.1	79.1
20代	80.0	87.2	63.6	84.5	74.5	74.3	24.5	19.6	0.0	0.0
30代	9.1	4.1	15.5	6.1	10.0	9.5	40.9	38.5	0.9	0.7
40代	0.9	0.0	1.8	0.0	6.4	6.1	10.9	13.5	0.0	0.7
50代	0.0	0.0	0.9	0.0	1.8	2.7	5.5	4.7	5.5	3.4
60代	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	1.8	0.7	14.5	16.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表14 男女別・出産時期の選択割合(小学生)

	第一子		第二子		第三子	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
しない	20.9	11.5	70.9	65.5	94.5	96.6
20代未満	1.8	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0
20代前半	3.6	3.4	0.9	1.4	0.0	0.0
20代後半	57.3	79.7	7.3	8.8	1.8	1.4
30代前半	8.2	2.0	10.0	14.9	1.8	0.7
30代後半	5.5	2.0	7.3	8.8	1.8	1.4
40代	1.8	0.0	1.8	0.7	0.0	0.0
50代	0.9	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0
60代	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

2) 中学生の特徴

年収額から見た働き方の選択については(表15), 20代においてはわずかに独身または片働きより、共働きを選択する生徒が多いが、小学生より独身または片働きを選択する割合が増えた。30代で共働きを選択する生徒が増加した。このことから20代の収入と支出内容を振り返り、30代での働き方を見直していることが分かる。図10より小学生と比較して娯楽の「100万円以下」の割合が10ポイント減少しているが、半数以上の生徒が選択している。保険は全体と同様で、98.9%とほとんどの生徒が加入した。

時間の関係上途中で終わってしまい、50代、60代の無記入の割合が多くなったが、各ライフイベントについては(表16), 全体の傾向とほぼ同様であるが、老人ホームを購入しない割合が6ポイント増加している。小学生と比べて20代で結婚、出産する割合が10ポイント減少しており、高校生・大学生と変わらないことから、結婚や出産時期を現実的に考えられるようになるのは中学生の時期からであると分かった。結婚と出産を選択した20代で、男子より女子の方が20ポイント多く、老人ホームを購入しない割合も女子の方が10ポイント高くなった。他校種と比較して子どもを出産しない割合が最も高い。

出産時期の選択は(表17), 第一子のお産時期は20代後半に次いで20代前半が高くなった。それに伴って第二子のお産時期が30代前半よりも、20代後半の割合の方が高くなっている点が中学生の特徴である。20代後半で第一子をお産する割合は男子より女子の方が10ポイント以上多い。男子はおおむね全体の男子と同様の傾向であるが、女子は全体の女子の傾向と異なり、第二子のお産時期が30代前半よりも、20代後半で高くなっている。第二子をお産しない割合は、男子は6割を超え、女子より10ポイント以上高くなった。

表15 年収額の選択割合(中学生)

	20代	30代	40代	50代	60代
1000万円以下	0.0	0.5	0.0	0.0	0.5
1000~2000万	0.5	0.2	0.5	0.5	0.0
2000~3000万	33.8	1.4	0.7	0.2	3.4
3000~4000万	15.8	15.8	0.5	0.0	0.2
4000~5000万	9.8	15.5	0.5	0.2	8.0
5000~6000万	39.3	3.7	17.1	0.5	18.9
6000~7000万	0.7	4.3	6.6	18.3	1.6
7000~8000万	0.2	40.2	2.1	5.9	0.7
8000~9000万	0.0	6.8	2.7	1.1	1.4
9000~1億円	0.0	5.5	1.8	1.1	1.6
1億円以上	0.0	3.7	52.1	34.5	11.9
無記入	0.0	2.5	15.5	37.7	51.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

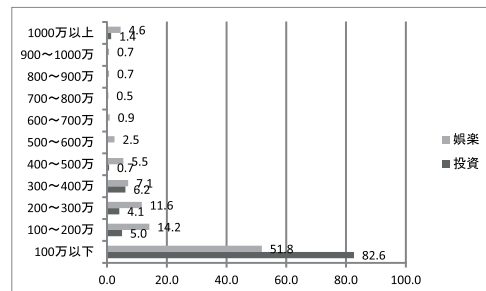


図10 娯楽・投資金額の選択割合(中学生)

表16 男女別・ライフイベントの選択割合(中学生)

	結婚		出産		車		住宅		老人ホーム	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
しない	17.1	6.9	24.4	9.9	3.9	9.0	14.1	22.7	74.1	86.3
20代	62.9	83.3	53.2	75.5	77.6	73.0	22.4	22.3	0.0	0.4
30代	17.1	9.9	20.0	14.2	12.7	15.5	53.2	44.6	0.0	0.0
40代	2.9	0.0	2.0	0.4	3.9	2.6	8.3	9.9	1.5	0.9
50代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	1.0	0.4	5.9	3.0
60代	0.0	0.0	0.5	0.0	1.5	0.0	1.0	0.0	18.5	9.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表17 男女別・出産時期の選択割合(中学生)

	第一子		第二子		第三子	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
しない	24.9	12.4	61.0	48.5	96.6	93.1
20代未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代前半	9.8	18.5	2.9	3.9	0.0	0.0
20代後半	44.4	57.1	12.2	20.6	1.5	1.3
30代前半	14.6	9.9	12.7	15.5	1.0	2.1
30代後半	3.9	2.1	9.8	10.7	0.5	2.6
40代	2.0	0.0	1.5	0.9	0.0	0.4
50代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.4
60代	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3) 高校生の特徴

小学生、中学生と比べて無記入が減り、最後までゲームをすることができた割合が高くなった。これはゲームにとれる時間枠が高校、大学は長かったことが理由である。年収額から見た働き方の選択では、20代において共働きよりも、独身または片働きを選択する割合が多くなった(表18)。年齢的に、将来をより現実的に考えられるようになったと考えられる。娯楽は、「100万円以下」の割合が半数にも満たなかった(図11)。また「1000万円以上」が増加し、「300万～400万円」より「400万～500万円」の割合が多く、わずかではあるが娯楽の金額が上がっている。保険は全体と同じ傾向を示し、95.3%の生徒が加入した。

ライフイベントの選択に関しては(表19)、全体の傾向とおおよそ同じであるが、20代の車の購入が全体より10ポイント増加しており、高校生となって行動範囲が広がったことにより、移動手段としての車を意識するようになったと考えられる。結婚は20代において男子より女子の方が多い。さらに男子も女子も他の校種の男女と比べて、出産「しない」を選択した割合が最も多くなった。出産は20代で男子より女子の割合が20ポイント以上高くなっているが、女子は他の校種の女子と比較すると、20代の子産の割合が最も低い。出産「しない」を選択した割合は(表20)、男子の方が約10ポイント多いが、第二子を出産を「しない」を選択した割合は男女に大きな差は見られず4割ほどとなった。他校種と比べて、男子は第一子の子産時期が20代前半、第二子の子産時期が20代後半の割合が高く、女子も第三子の子産が20代後半から30代前半に限られていることから、男女共通して出産は20代前半からと考えている傾向があるといえる。小学生、中学生では第二子を出産「しない」割合が半数を超えたが、高校生となり5割弱となった。

表18 年収額の選択割合(高校生)

	20代	30代	40代	50代	60代
1000万円以下	0.0	0.4	0.9	0.4	0.9
1000～2000万	0.9	0.0	1.3	0.9	0.0
2000～3000万	35.9	0.0	0.0	0.0	7.7
3000～4000万	17.5	9.8	0.0	0.4	0.0
4000～5000万	18.4	26.9	0.0	0.0	3.8
5000～6000万	27.4	3.8	14.5	0.9	26.9
6000～7000万	0.0	2.1	14.1	20.1	5.6
7000～8000万	0.0	36.3	2.1	15.4	6.4
8000～9000万	0.0	10.7	3.4	0.4	1.3
9000～1億円	0.0	4.7	2.1	1.3	1.3
1億円以上	0.0	5.1	56.8	47.9	23.1
無記入	0.0	0.0	4.7	12.4	23.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

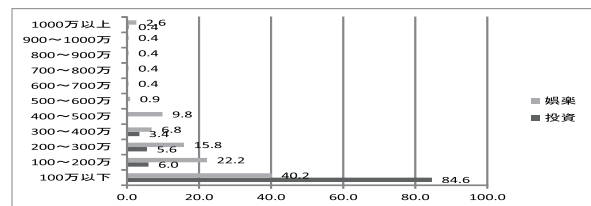


図11 娯楽・投資金額の選択割合(高校生)

表19 男女別・ライフイベントの選択割合(高校生)

	結婚		出産		車		住宅		老人ホーム	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
しない	21.9	6.8	26.0	11.8	4.1	5.6	13.7	11.8	68.5	83.9
20代	60.3	75.8	46.6	69.6	86.3	86.3	6.8	21.7	0.0	0.0
30代	16.4	17.4	24.7	18.6	8.2	6.8	49.3	57.1	0.0	0.0
40代	1.4	0.0	2.7	0.0	1.4	1.2	26.0	8.1	2.7	0.6
50代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.1	1.2	5.5	0.6
60代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.3	14.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表20 男女別・出産時期の選択割合(高校生)

	第一子		第二子		第三子	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
しない	27.4	13.7	43.8	44.7	94.5	94.4
20代未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代前半	12.3	15.5	0.0	4.3	0.0	0.0
20代後半	34.2	55.3	21.9	24.2	1.4	1.9
30代前半	12.3	9.3	20.5	14.3	1.4	3.7
30代後半	9.6	6.2	13.7	11.8	2.7	0.0
40代	2.7	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0
50代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60代	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

4) 大学生の特徴

年収額から見た働き方の選択は(表21), 20代において「2000万~3000万円」が約半数を占めており, 他校種に比べて独身または片働きを選択していることが特徴である。40代以降も他校種に比べて年収金額が下回っており, ボードに書かれた20代を現在の自分と直結して考えられたことによって, より現実的に年収額を設定できたといえる。図12より, 娯楽の「100万円以下」の割合は最も低く, わずか10%ほどである。年齢を経るにしたがって割合が減少し, 日常の中で娯楽に使っている金額を踏まえて考えられている。反対に投資の「100万円以下」の割合は他の校種に比べ最も高く, 小学生から大学生に上がるにつれて段階的に増加していく傾向が見られた。保険の加入率は, 99.3%と他校種に比べて最も高かった。

ライフイベントの選択に関しては(表22), 全体と異なる点として, 20代の子産の割合や, 老人ホームを購入しない割合が減少したこと, また住居の購入において20代を40代の割合が上回っている点が挙げられる。結婚と出産の20代の割合の開きが最も大きく, 結婚は20代だが, 出産は30代と考える学生が多いといえる。出産「しない」を選択した割合は1割にも満たない。結婚, 出産, 共に男子より女子の方が20代の割合は多く, 出産に関していえば30ポイント女子が上回っている。男子の30代に出産を選択した割合が最も多い傾向は他では見られず, 大学生男子の特徴であるといえる。他の校種と比べて, 男女によって出産に対する認識が異なった。また男子の20代の車の購入は9割を超え, 男女共通して20代の住宅購入の割合は全体と比べて減少している。表23より第一子も第二子も出産時期は20代後半の割合が半数を超えており, 多くの学生が20代後半までに子どもを2人出産するというイメージを抱いていることが分かった。男女共通して第一子, 第二子とも出産「しない」を選択した割合は低く, 第一子の出産が20代前半である割合は低くなった。また第二子の出産が30代前半である割合が突出していることも共通している。男子は第一子の出産年齢において, 20代後半と30代前半の割合がほぼ同一であることに対して, 女子は20代後半の割合が7割を占めていた。

表21 年収額の選択割合(大学生)

	20代	30代	40代	50代	60代
1000万円以下	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1000~2000万	15.1	0.3	0.3	0.3	0.3
2000~3000万	49.7	0.3	0.0	0.3	9.6
3000~4000万	31.5	9.2	0.7	0.7	0.0
4000~5000万	1.0	39.4	2.1	0.7	4.5
5000~6000万	2.7	14.4	10.6	1.7	28.1
6000~7000万	0.0	8.9	33.6	14.0	26.4
7000~8000万	0.0	24.7	2.7	36.0	3.8
8000~9000万	0.0	2.4	2.7	2.1	1.4
9000~1億円	0.0	0.3	2.1	1.7	1.0
1億円以上	0.0	0.0	44.5	38.0	19.5
無記入	0.0	0.0	0.7	4.5	5.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

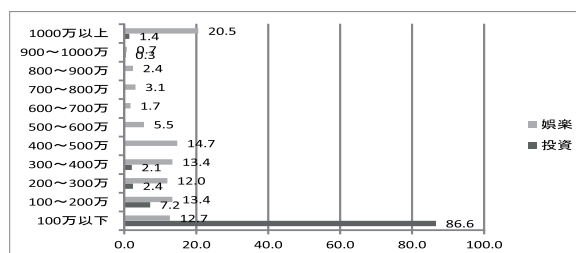


図12 娯楽・投資金額の選択(大学生)

表22 男女別・ライフイベントの選択割合(大学生)

	結婚		出産		車		住宅		老人ホーム	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
しない	9.4	5.8	13.8	6.5	0.7	5.8	12.3	14.9	59.4	61.0
20代	64.5	85.7	42.0	74.7	91.3	71.4	2.9	8.4	0.0	0.6
30代	26.1	8.4	43.5	18.8	8.0	22.1	58.7	53.2	0.0	0.0
40代	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.6	22.5	19.5	0.0	2.6
50代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	3.9	3.6	3.2
60代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.0	32.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表23 男女別・出産時期の選択割合(大学生)

	第一子		第二子		第三子	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
しない	12.3	6.5	37.0	14.9	94.2	83.1
20代未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代前半	0.7	1.9	0.0	0.0	0.0	0.6
20代後半	41.3	70.8	3.6	19.5	2.9	0.6
30代前半	41.3	20.1	50.0	61.0	2.9	13.0
30代後半	3.6	0.6	7.2	3.9	0.0	2.6
40代	0.7	0.0	2.2	0.6	0.0	0.0
50代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3. まとめ

本論文では、「人生設計ゲーム」を用いた授業において記載されたボードの記述内容を分析することで、個々人が思い描いている人生観を把握することを目的とした。「人生設計ゲーム」は、1人にボード1枚が配布されて、ボード上において10年ごとの人生を20代から寿命まで考えながら金額を記入し、進めていくゲームである。そのためゲームで使用したボードには、ゲームを行った当事者のライフプランが記録されている。本論文では、「年収額」、「選択可能なライフイベント」、「子どもの出産時期」、「娯楽・投資金額」、「保険」に着目して、ボードの記述からわかる各校種別、男女別のライフプランを分析した。

この結果、年代や性別によってライフプランが異なり、年齢を重ねるごとに、より現実に即した人生を選択する傾向が見られた。各年代の年収額から働き方を分析すると、20代は、独身または片働きを選択する対象者が多く、40代、50代では共働きを選択する傾向が見られた。結婚、出産、車の購入は20代、住宅購入は30代、老人ホームを購入するかどうかに関しては「しない」の割合がそれぞれ高くなった。住宅購入は、結婚や出産、車の購入などの一通りのライフイベントが終わった30代に最も選択され、その後から共働きをする傾向が見られた。老人ホームの購入は75%の高い割合で購入しないという選択となった。出産時期は、第一子を20代後半に選択する人数が半数以上を占め、第二子は30代前半で約25%、第三子は1割以下であったことから、30代前半の割合が最も高くなった。子どもの数が増えるにつれ、出産しない選択をする割合が高くなり、第二子の時点で約半数が出産を選択しなかった。また第三子は9割が出産「しない」を選択する結果となった。娯楽・投資の金額については、共に100万円以下の金額の割合が最も高くなった。投資に関しては特に「100万円以下」が8割であった。娯楽に関しては投資と異なり、広い金額の範囲に分布しており、個人によって娯楽に対して割く金額が大きく異なることが分かった。貯蓄額に余裕ができた場合、娯楽に対して使う金額が増加するのだと考えられる。保険はほとんどが加入した。

男女別では、20代、30代、50代、60代に違いが見られ、20代において男子は独身または片働きを選択するのに対して、女子は共働きを選択するものが多かった。20代の働き方の選択が60代まで影響を及ぼし、男子は独身または片働き、女子は共働きを働き方として選択する傾向があると分かった。女子は20代のうちに結婚や出産を選択する割合が高い。第一子の出産時期について、女子は20代後半が半数以上を占めているが、男子は20代後半の割合が低く、30代前半の割合は女子の30代前半の割合より高くなっている。結果、わずかに男女によって出産適齢期の認識に差が見られた。また生涯出産「しない」を選択した割合は男子の方が10ポイント高い。投資・娯楽どちらも、女子の方が「100万円以下」の割合が多い。そのため男子は貯金がある場合に娯楽や投資にお金を使い、投資のような未経験のことにお金を使うことに関して、積極的であるという傾向があるといえる。保険について全体の傾向と同様、男女ともほとんどの対象者が保険に加入していた。

校種別分析の結果、小学生は共働きの選択が多く、20代で結婚、出産を選択しているが、第二子を

望まない割合も高い。娯楽や投資への支出は低く、保険加入率は他の校種に比べると低くなった。中学生は、独身または片働きの割合が小学生より増え、30代で共働きを選択する割合が増加する。結婚と出産は20代で選択する割合が多いが、小学生よりも少なくなった。出産に関しては「しない」を選択した割合が他の校種に比べて最も高く、第一子は20代後半と前半、第二子を20代後半に選択している。娯楽や投資についてはまだ現実的には捉えられていない。保険はほとんどが加入した。高校生は、20代では独身または片働きの割合が小学生、中学生よりも多くなった。車の購入も20代からが多くなり、現実的となる。出産に関しては中学生と同様の傾向を示し、20代前半からと考えている。娯楽や投資に関しては金額が高くなった。保険はほとんどが加入した。男女別に見ると、20代での結婚、出産は女子の割合が他の校種と比較しても低い。女子は30代で住宅購入を選択している割合が多くなった。大学生は他の校種と比べて20代では独身または片働きを選択する割合が高かった。結婚は20代であっても出産は30代と考える学生が多くなった。出産「しない」を選択した割合は低く、20代後半までに第二子を出産する選択をした。娯楽や投資に関しては、娯楽に使う金額は高くなり、投資は100万円以下が他の校種に比べて最も高くなった。保険の加入率は他の校種と比べて最も高くなった。男女別でみると、20代での結婚、出産ともに女子の方が高く、女子は20代後半で7割となった。男子は30代が最も高くなった。車の購入は男子が20代で9割以上となり、男女ともに20代での住宅購入は減少した。

以上、本論文では、「人生設計ゲーム」で対象者がどのような人生を選択したかを、ボードに記述された金額によって推測し分析した。本論文の結果から、小学生、中学生、高校生、大学生の各年代と男女によって、どのようにライフプランを捉えているかを把握することが可能となった。特に結婚や出産で「しない」を選択した子どもが多くみられたことは、現在の少子化を反映していると考えられる。これらの結果は、人生の捉え方から、特に就職や結婚、出産等の認識や人生設計の仕方の内容を取り扱った授業を展開していく際に、各年代に不足する知識はどのようなところにあるかを、あらかじめ押さえておく目安として、役立てていくことができる。また周りの大人が子どもたちの人生観を把握する以外にも、実生活の中で、人生観を周りに語る機会がほとんどなかった子どもたちにとって、ボードの人生を周囲と共有することで、互いに参考にし、情報収集の交流ができるという、二次的効果も得られることが明らかとなった。

参考文献

- 大藪千穂 (2014), 情報活動を基盤とした消費者教育の実践—契約とクーリング・オフ制度—, 消費者教育, 第34冊, 175-183
- 大藪千穂・奥田真之 (2013), 情報活動を基盤とした消費者教育の実践—環境金銭教育 (1) 理論と授業実践, 日本消費者教育学会中部支部 中部消費者教育論集, 第9号, 35-48
- 大藪千穂・奥田真之 (2014), 情報活動を基盤とした新しい視点による金融経済教育の開発と実践, 生活経済学研究, 第40巻, 1-14
- 大藪千穂・奥田真之 (2015a), 「人生設計ゲーム」を用いた金融経済教育, 生活経済学研究, 第41巻, 45-53
- 大藪千穂・奥田真之 (2015b), 「情報活動を基盤とした消費者教育の実践—地域金融機関による金融経済教育2.情報活動の特徴別 (タイプ別) 実践結果分析—, 中部消費者教育論集, 第11号, 15-30
- 大藪千穂・奥田真之 (2016), 地域金融機関との連携による金融経済教育の開発と実践—「人生設計ゲーム」の教育効果と地域貢献—, 生活経済学研究, 第43巻, 65-75
- 大藪千穂・杉原利治・坂野美恵 (2005), 小学校における生活指標を用いた消費者教育の実践—子供の自己評価と情報活動との関係—, 消費者教育, 第25冊, 33-40
- 大藪千穂・杉原利治 (2008), 人間発達プロセスを基盤とした「人生設計ゲーム」の開発, 消費者教育, 第28冊, 95-105
- 奥田真之・大藪千穂 (2013), 情報活動を基盤とした消費者教育の実践—地域金融機関による金融経済教育—,

日本消費者教育学会中部支部 中部消費者教育論集, 第9号, 49-62

奥田真之・大藪千穂 (2014), 情報活動を基盤とした消費者教育の実践－環境金銭教育 (2) 「記述内容の充実度」と「人間発達」による授業分析, 消費者教育, 第34冊, 205-212

金融経済教育推進会議 (2014) 「金融リテラシー・マップ『最低限身に付けるべき金融リテラシー (お金の知識・判断力)』の項目別・年齢層別スタンダード」

<http://www.shiruporuto.jp/teach/consumer/literacy/pdf/map.pdf>

消費者庁 (2013) www.caa.go.jp/information/pdf/130122imagemap_4.pdf

坂野美恵・大藪千穂・杉原利治 (2003), 人間発達を基盤とした消費者教育の構築と生活指標の開発, 消費者教育, 第23冊, 67-74

坂野美恵・大藪千穂・杉原利治 (2004), 小学校における新しい生活指標を用いた消費者教育の実践－個人・家族を対象とした「消費・貯蓄分野」の生活指標分析－, 消費者教育, 第24冊, 167-176